

2022（令和4）年度通常総会資料

（2022年4月1日～2023年3月31日）

公益社団法人 日本磁気学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京YWCA会館 207号室
電話 (03)5281-0106, メール msj@bj.wakwak.com

<通常総会議事>

議 事

- 第1号議案 2022年度 事業報告に関する件
- 第2号議案 2022年度 収支決算報告に関する件
- 第3号議案 2023年度 事業計画に関する件
- 第4号議案 2023年度 収支予算に関する件
- 第5号議案 名誉会員の推薦に関する件
- 第6号議案 2023・2024年度役員の推薦に関する件

—以上—

第1号議案 2022(令和4)年度 事業報告に関する件

(2022年4月1日～2023年3月31日)

今年度はいわゆる”with コロナ”の方針に基づき、会長・副会長のリーダーシップの下、引き続き理事会主導による学会のアクティビティ向上のための各種の施策を強力に実行した。今年度実施した主な新規事業、施策、並びに特記事項等は以下の通りである。

- ・学会コンテンツ電子化に向けたタスクフォース立ち上げ
- ・役員選挙用の電子投票システム導入
- ・学術講演会の3年ぶりとなる現地開催、並びにMSJ講習会(2回)の企画・実施
- ・JMSJ、並びに論文特集号へのクリエイティブ・コモンズライセンスの付与
- ・IcAUMS2024(旧 Joint IcAUMS-ISAMMA2020)をIcAUMS 2025として開催決定

また、会員増のための各種取り組みを継続して実施し、学生会員数が2年連続で増加する等、地道な取り組みが着実に実を結びつつある。

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1.1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は3年ぶりに第46回学術講演会を信州大学(長野工学キャンパス)にて現地開催した。

◎第46回学術講演会

期日:	令和4年9月6日(火)～9月8日(木)
会場:	信州大学(長野工学キャンパス)(現地開催)
実行委員長:	佐藤敏郎(信州大学)
講演件数:	220件
セッション数:	40
参加者数:	386名

※シンポジウム一覧

1) “Novel design and synthesis approach for electro-magnetic materials”

参加者:約30名

2) “Basic lecture and front line on motor and power electronics field and an expectation on material science”

参加者:約50名

3) “Recent progress and future prospects for nuclear magnetic resonance technique under low magnetic field”

参加者：約 50 名

4) “Arrangement and orientation control of fine particles by magnetic field and its application”

参加者：約 20 名

1. 2 研究会

第 237 回から第 241 回までの 5 回の研究会を、下記の通り企画・オンライン開催した。

1) 第 237 回研究会／第 84 回スピントロニクス専門研究会

「スピントロニクスのエナジーハーベスティングへの展開」

期日：令和 4 年 7 月 20 日（水）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：32 名

2) 第 238 回研究会

「マテリアルズインフォマティクスの進展と磁性材料への応用」

期日：令和 4 年 10 月 25 日（火）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：25 名

3) 第 239 回研究会／第 46 回光機能磁性デバイス・材料専門研究会

「光による磁気物性計測と光計測技術の最前線」

期日：令和 4 年 11 月 22 日（火）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：26 名

4) 第 240 回研究会／第 95 回ナノマグネティクス専門研究会

「磁気物性に関する計算科学の最前線」

期日：令和 4 年 12 月 12 日（月）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：28 名

5) 第 241 回研究会／第 8 回バイオマグネティクス専門研究会

「磁性材料を活用したバイオ・医療応用」

期日：令和 5 年 3 月 29 日（水）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：28 名

1. 3 講習会、公開講座

初等磁気工学講座およびサマースクールを、下記の通りハイブリッド開催した。また昨年

度新設のMSJ講習会の開催回数を増やし2回オンライン開催した。

◎第27回初等磁気工学講座

期日：令和4年6月28日(火)

会場：ハイブリッド開催(連合会館、Zoom)

参加者：61名

◎第45回サマースクール

期日：令和4年6月29日(水)～7月1日(金)

会場：ハイブリッド開催(連合会館、Zoom)

参加者：55名

※公益財団法人加藤科学振興会 令和3年度研究集会助成金を受けて実施

◎第2回MSJ講習会「室温生体磁気測定ニーズとシーズ」

期日：令和4年12月22日(木)

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：26名

◎第3回MSJ講習会「パワーエレクトロニクス磁気工学の基礎と応用」

期日：令和5年1月17日(木)

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：38名

◎第28回公開講演会「磁石の不思議な世界ー聞いて、さわって、体験しようー」

期日：令和4年8月28日

会場：千葉工業大学

参加者：35名(保護者含む)

◎第8回岩崎コンファレンス「Society 5.0を支える磁性材料・デバイスの最先端」

期日：令和4年12月5日、6日

会場：東北大学(オンライン併用)

参加者：63名(講演者含む)

1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 94 回	令和 4 年 10 月 27 日、28 日	ハイブリッド開催 (現地：信州大学)	50 名
第 95 回	令和 4 年 12 月 12 日	オンライン開催	28 名

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 84 回	令和 4 年 7 月 20 日	オンライン開催	32 名
第 85 回	令和 4 年 10 月 18 日	ハイブリッド開催 (現地：北海道大学)	90 名
第 86 回	令和 5 年 1 月 13 日	ハイブリッド開催 (現地：名古屋大学)	107 名
第 87 回	令和 5 年 3 月 13 日	ハイブリッド開催 (現地：京都大学)	41 名

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 70 回	令和 4 年 7 月 22 日	オンライン開催	22 名
第 71 回	令和 4 年 9 月 6 日	信州大学	30 名

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 62 回	令和 4 年 9 月 8 日	信州大学	20 名
第 63 回	令和 4 年 12 月 12 日	オンライン開催	41 名
第 64 回	令和 4 年 12 月 22 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学東京ブランチ)	17 名
第 65 回	令和 5 年 3 月 14 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学)	24 名
第 66 回	令和 5 年 3 月 22 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学東京ブランチ)	18 名
第 67 回	令和 5 年 3 月 24 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学東京ブランチ)	21 名

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 46 回	令和 4 年 11 月 22 日	オンライン開催	26 名
第 47 回	令和 5 年 1 月 27 日	ハイブリッド開催 (現地：長岡技術科学大学 東京サテライトキャンパス)	29 名

6) エネルギーマグネティクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
----	----	----	-----

第 15 回	令和 4 年 9 月 6 日	信州大学	50 名
--------	----------------	------	------

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 8 回	令和 5 年 3 月 29 日	オンライン開催	28 名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 6 回	令和 4 年 9 月 7 日	信州大学	50 名

1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の国際会議を協賛した。

1) The 22nd International Vacuum Congress (IVC-22)

(公社) 日本表面真空学会、日本学術会議
札幌コンベンションセンター 令和 4 年 9 月 11 日(日)～16 日(金)

2) ALC'22 (14th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices'22)

(公社) 日本表面真空学会
万国津梁館 令和 4 年 10 月 16 日(日)～21 日(金)

3) Magnetism and Optics Research International Symposium 2022 (MORIS 2022)

MORIS2022 組織委員会
島根県立産業交流会館くまびきメッセ 令和 4 年 5 月 16 日(月)～19 日(木)

4) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2022 (ISOM'22)

ISOM 組織委員会
札幌コンベンションセンター 令和 4 年 7 月 31 日(日)～ 8 月 3 日(水)

1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

◎INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 2023 年 5 月 15～19 日

※実行委員会 (2022 年 4 月 21 日、7 月 19 日、9 月 16 日、11 月 1 日、12 月 12 日、2023 年 1 月 18 日、2 月 15 日、3 月 14 日) に参加し、開催に向けて現地実行委員会と連携して必要な対応を進めた。

◎IcAUMS 2025 (沖縄コンベンションセンター)

※準備委員会を中心に開催日程の再検討を進め、IcAUMS 2025 として 2025 年 4 月 21～24 日の日程で沖縄コンベンションセンターにて開催することになった。会場予約など、必要な手続きを完了した。

1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetics Societies) との連携

沖縄にて開催予定の IcAUMS2024 について、国際状況の動向や現地の状況等を踏まえ、国際委員会が窓口となって AUMS Council member と今後の対応について検討を進めた。合計 4 回の AUMS Council meeting をオンライン及びハイブリッドで開催し、IcAUMS の開催時期、場所、並びに実施の可能性も含めて様々な検討を行った。

◎第 30 回 AUMS Council meeting (2022 年 5 月 19 日オンライン開催)

AUMS Award と AUMS Young Researcher Award の選考について方法・時期を確認した。

◎第 31 回 AUMS Council meeting (2022 年 9 月 29 日オンライン開催)

沖縄開催予定の IcAUMS2024 について、開催時期を 2025 年に変更することを提案し、IcAUMS2025 として開催することが了承された。関連して IcAUMS を 2023 年 8 月にインドネシアのバリで開催することが提案され承認された (IcAUMS2023)。また、AUMS Award と AUMS Young Researcher Award について受賞者の案内があり、MSJ から、高梨弘毅元会長が AUMS Award を、Sepehri Amin Hossein 氏が AUMS Young Researcher Award を受賞した。

◎第 32 回 AUMS Council meeting(2022 年 12 月 1 日オンライン開催)

MSJ 選出の AUMS Council member について、中川活二前会長から、竹村泰司副会長への変更を提案し、承認された。

◎第 33 回 AUMS Council meeting (2023 年 2 月 12 日ハイブリッド開催、開催はインドネシア・バンドン)

IcAUMS2023 について日程・場所等の詳細を決定した。

2. 学会誌の刊行 (定款 4 条 2 号)

Journal of the Magnetics Society of Japan (JMSJ) を 46 巻 3 号より 47 巻 2 号まで計 6 回、日本磁気学会論文特集号を 6 巻 1 号より 6 巻 2 号まで計 2 回、また会報「まぐね」を 17 巻 2 号より 18 巻 1 号まで計 6 回発行した。「JMSJ」は論文に特化し、英文論文を掲載した。「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文によらない論文を掲載した。また学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎に MSJ 論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

2. 1 学会誌 Journal of the Magnetics Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容 (詳細は各号の目次参照)
-----	-------	-----------------

46-3	令和4年5月1日	論文4件、総ページ数 27
46-4	令和4年7月1日	論文2件、総ページ数 13
46-5	令和4年9月1日	論文2件、総ページ数 11
46-6	令和4年11月1日	論文1件、総ページ数 5
47-1	令和5年1月1日	論文3件、総ページ数 27
47-2	令和5年3月1日	論文4件、総ページ数 29

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 2 日本磁気学会論文特集号

Transaction of the Magnetism Society of Japan -Special Issues-

巻号	発行年月日	内容 (詳細は各号の目次参照)
6-1	令和4年5月1日	論文19件、総ページ数 104
6-2	令和4年9月1日	論文3件、総ページ数 16

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 3 MSJ 論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和4年5月	<p>Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.3 <修士課程の部> 秋田大学 尾関 拓海 氏</p> <p>日本磁気学会論文特集号 第6巻1号 <博士課程の部> 東北大学 水穴 裕真 氏 東北大学 櫻井 翔 氏</p> <p><修士課程の部> 東京理科大学 増澤 賢 氏 東北大学 小澤 海斗 氏 東北大学 高野 凌 氏 東北大学 石原 知弥 氏 東北大学 三ツ谷 和秀 氏 東北大学 于 越 氏 秋田大学 照井 智理 氏</p>
令和4年7月	<p>Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.4 該当者なし</p>
令和4年9月	<p>Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.5 該当者なし</p> <p>日本磁気学会論文特集号 第6巻2号 <博士課程の部></p>

	秋田大学 三上 貴大 氏 <学部等学生の部> 横浜国立大学 今村 光佑 氏
令和4年11月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.46, No.6 <修士課程の部> 東北大学 高木 薫 氏
令和5年1月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.47, No.1 該当者なし
令和5年3月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.47, No.2 該当者なし

2. 4 学会報「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
17-2	令和4年4月1日	論説「運と勤に流されて」(中谷亮一) 特集「軽元素を利用した磁性材料研究の新展開」 解説2件、トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 60
17-3	令和4年6月1日	論説「理論家は雄鶏, 実験家は?」(鈴木義茂) 特集「パワーエレクトロニクスの動向」 解説1件、トピックス3件 総ページ数 48
17-4	令和4年8月1日	論説「目に見えない「障壁」をトンネルした先にあるものは」(安藤康夫) 特集「我が国における元素戦略」 解説1件、トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 44
17-5	令和4年10月1日	論説「磁気異方性に翻弄された43年」(加藤宏朗) 特集「反強磁性スピントロニクスの進展」 解説2件、トピックス2件 総ページ数 40
17-6	令和4年12月1日	令和4年度 日本磁気学会授賞 論説「磁気力顕微鏡研究に至るまでの転機を振り返って」 (齊藤準) 特集「ダイヤモンド固体量子センサと量子センシング技術」 解説1件、トピックス4件 総ページ数 64
18-1	令和5年2月1日	論説「人生の転機とキャリア戦略」(中島健介) 特集「微小磁気信号計測のための磁気ノイズ対策技術」

		解説 1 件、トピックス 4 件 総ページ数 48
--	--	------------------------------

副会長（運営戦略担当）中心の広告タスクフォースとともに、広告代理店と密接に協力して学会報まぐねへの広告投稿勧誘を積極的に継続実施した。その結果、これまで広告出稿頂いている企業機関の継続出稿に加え、新規広告出稿案件も獲得できた。これにより、広告出稿企業のすそ野を広げることができ、まぐねの魅力向上につながった。

Journal of the Magnetics Society of Japan、並びに日本磁気学会論文特集号に掲載される論文（令和 5 年 1 月以降）について、クリエイティブ・コモンズ CC BY 4.0 を付与し、論文の再利用促進を図った。

3. 研究および調査の実施（定款 4 条 3 号）

3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス（No.196～205）として会員へ情報提供を行った。また、各種会議の開催案内や表彰応募などについて会員向けにメールマガジン（No.306～331）を配信するとともに、Facebook による情報発信サービスを行った。さらに、会員向けサービスの一環として、昨年度に引き続き「まぐね」連載講座の一部記事をホームページに掲載し、閲覧可能とした。今後も順次掲載コンテンツを増やすことで、磁気関連分野への関心を高めるとともに、会員サービスの拡充を図る。

3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

Facebook の活用を通じた戦略的な勧誘活動を通じて閲覧数を増やす方策を検討し、記事の定期的更新とともに、各研究会の紹介や報告概要の掲載、各種受賞者の紹介などコンテンツの充実を図った。

3. 3 ホームページの管理および安定運用

ホームページにおける記載内容の不備を適宜修正するとともに、セキュリティレベルを維持するために、定期的にホームページのテーマセット及びプラグインのアップデートを随時実施した。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 4 条 4 号）

2022（令和 4）年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞、新技術・新製品賞、および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。また、業績賞受賞者に対しては、その功績を称え MSJ フェロー称号の授与を行った（学会賞受賞者はフェロー称号授与済み）。

学会賞、業績賞、優秀研究賞については杉本論委員長・齋藤秀和副委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞については小野輝男委員長、学生講演賞、新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞については湯浅裕美委員長の体制でそれぞれ選考を担当した。

◎学会賞

- ・宝野 和博 氏 (物質・材料研究機構、MSJ フェロー)
「ナノ構造を制御した先進磁性材料の研究」

◎業績賞・フェロー

- ・白石 誠司 氏 (京都大学)
「非金属材料におけるスピントロニクス機能創出とその外場制御に関する先駆的研究」
- ・深見 俊輔 氏 (東北大学)
「新機能スピントロニクス素子の開発と革新的情報処理への展開」

◎優秀研究賞

- ・竹村 泰司 氏 (横浜国立大学)
「医療応用に向けた磁性ナノ粒子の交流磁化特性の解明」
- ・首藤 浩文 氏 (物質・材料研究機構)
「高密度磁気記録応用に向けた高周波磁化ダイナミクス・スピントロニクスデバイスの研究」
- ・三浦 良雄 氏 (物質・材料研究機構)
「磁気接合系におけるスピン依存伝導に関する理論的研究」

◎論文賞

- ・ Y. M. Hung, T. Li, R. Hisatomi, Y. Shiota, T. Moriyama, and T. Ono
「Low Current Driven Vertical Domain Wall Motion Memory with an Artificial Ferromagnet」
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.6-11 (2021).
- ・ Y. Mizuana, K. Nakamura, Y. Suzuki, Y. Oishi, Y. Tachiya, and K. Kuritani
「Performance Improvement of Spoke-shaped Interior Permanent Magnet Magnetic Gear」
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.50-55 (2021).
- ・ Y. Kobayashi, T. Ikebuchi, Y. Shiota, T. Ono, and T. Moriyama
「Estimation of Magnetic Domain Size in Chiral Antiferromagnet Mn_3Ir by the Anomalous Hall Measurements」
J. Magn. Soc. Jpn., **45**, pp.75-78 (2021).

◎学術奨励賞 (内山賞)

- ・小澤 海斗 氏 (東北大学)
「強磁性超弾性合金を用いた振動発電の基礎検討」

日本磁気学会論文特集号, **6**, pp.15-19 (2022).

- ・尾関 拓海 氏 (秋田大学)
「Development of BiFeO₃-Based Multiferroic Thin Films with Large Saturation Magnetization and Perpendicular Magnetic Anisotropy -The Effect of the Co Substitution Against Fe on Magnetic Properties-」
J. Magn. Soc. Jpn., **46**, pp.64-69 (2022).
- ・坂口 穂貴 氏 (長岡技術科学大学)
「3D magnetic field vector measurement by magneto-optical imaging」
J. Magn. Soc. Jpn., **46**, pp.37-41 (2022).
- ・戴 博群 氏 (東北大学)
「不等幅ポールピースによる整数ギヤ比を有するアキシシャルギャップ型磁気ギヤのコギングトルク低減」
日本磁気学会論文特集号, **6**, pp.58-62 (2022).
- ・照井 智理 氏 ((秋田大学)
「アキシシャルギャップ誘導モータの設計手法に関する検討」
日本磁気学会論文特集号, **6**, pp.74-80 (2022).
- ・野口 翔矢 氏 (横浜国立大学)
「AC magnetic susceptibility of magnetic nanoparticles measured under DC bias magnetic field」
J. Magn. Soc. Jpn., **46**, pp.42-48 (2022).

◎学生講演賞 (櫻井講演賞)

- ・石川 翔太 氏 (名古屋大学)
「La_{1-x}Sr_xMnO₃/薄膜/BaTiO₃(100)における磁気異方性変調効果」
講演番号: 第 45 回学術講演会 31aB-3
- ・照井 智理 氏 (秋田大学)
「アキシシャルギャップ誘導モータの設計手法に関する検討」
講演番号: 第 45 回学術講演会 31pD-9
- ・北浦 怜旺奈 氏 (大阪大学)
「半導体/強磁性体積層構造による横ゼーベック係数の増大」
講演番号: 第 45 回学術講演会 01aB-6
- ・明田 俊祐 氏 (横浜国立大学)
「電界めっき法により作製した Co-Ni 合金膜の構造と磁気特性」
講演番号: 第 45 回学術講演会 02pD-8

- ・野口 翔矢 氏 (横浜国立大学)
「直流磁場により配向制御した磁性ナノ粒子の交流磁化率」
講演番号：第 45 回学術講演会 31aA-9
- ・園田 航 氏 (名古屋大学)
「ノンコリニア反強磁性体逆ペロブスカイト窒化物薄膜における異常ホール効果」
講演番号：第 45 回学術講演会 31aB-10
- ・高橋 隼之介 氏 (東北大学)
「スイッチ磁界に対する磁性ナノ粒子の応答性を利用した多菌種検出」
講演番号：第 45 回学術講演会 01aA-10
- ・村松 省吾 氏 (東北大学)
「Fe-Ga-C 薄膜における構造と静的・動的磁気特性の C 組成依存性」
講演番号：第 44 回学術講演会 02pD-9

◎出版賞

- ・前川 禎通 氏、堤 康雅 氏
書籍名 (出版社)：「スピントロニクス」(日本評論社)
- ・藤崎 敬介 氏 (編著) 、DENIS Nicolas 氏、八尾 惇 氏、川添 良幸 氏、
赤城 文子 氏、松尾 哲司 氏、池田 文昭 氏、進藤 裕司 氏、小田原 峻也 氏、
榎園 正人 氏、杉本 諭 氏、中島 晋 氏、西内 武司 氏、大森 賢次 氏、広沢 哲 氏、
曾根原 誠 氏、山崎 克巳 氏、清水 敏久 氏、青木 哲也 氏、脇若 弘之 氏
書籍名 (出版社)：「モータ駆動システムのための磁性材料活用技術」(コロナ社)

◎新技術・新製品賞

- ・本年度の該当なし

◎技術功労賞

- ・菊地 敏明 氏 (有限会社 ハヤマ)
「パルス磁界を初めとした様々な磁界印加機構を有する磁気特性計測装置の開発への
貢献」

◎学会活動貢献賞

- ・鈴木 宏輔 氏 (群馬大学)、田中 雅章 氏 (名古屋工業大学)
「日本磁気学会総務幹事としての活動を通じた学会活動への貢献」

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力 (定款 4 条 5 号)

下記の会合を協賛した。

- 1) 第 38 回希土類討論会
主催：日本希土類学会
熊本市国際交流会館
令和 4 年 5 月 11 日(水)～12 日(木)
- 2) 第 34 回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム
主催：(一社) 日本機械学会
仙台市宮城野区文化センター
令和 4 年 5 月 11 日(水)～13 日(金)
- 3) 中性子産業利用報告会
主催：J-PARC センタ、茨城県他
秋葉原コンベンションホール・オンライン
令和 4 年 7 月 14 日(木)～15 日(金)
- 4) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2022
主催：NPO 法人 natural science
東北大学川内北キャンパス
令和 4 年 7 月 17 日(日)
- 5) 日本金属学会オンライン教育講座「結晶学の基礎」
主催：(公社)日本金属学会
オンライン(Zoom)
令和 4 年 8 月 25 日(木)～26 日(金)
- 6) 令和 4 年度マイクロメカトロニクス学術講演会
主催：(一社)日本時計学会
中央大学理工学部(後楽園キャンパス)・オンライン
令和 4 年 9 月 16 日(金)
- 7) 日本金属学会オンライン教育講座「状態図・相平衡・拡散の基礎」
主催：(公社)日本金属学会
オンライン (Zoom)
令和 4 年 10 月 4 日(火)～5 日(水)
- 8) 日本金属学会オンライン教育講座「材料強度の基礎」
主催：(公社)日本金属学会
オンライン(Zoom)
令和 4 年 10 月 20 日(木)～21 日(金)
- 9) 第 32 回 RCJ 信頼性シンポジウム
主催：(一社)日本電子部品信頼性センター
大田区産業プラザ
令和 4 年 10 月 26 日(水)～27 日(木)
- 1 0) 第 31 回 MAGDA コンファレンス(MAGDA2022)
主催：日本 AEM 学会
かごしま県民交流センター
令和 4 年 11 月 1 日(火)～2 日(水)
- 1 1) 令和 4 年度 時計学会秋季研究会
主催：(一社) 日本時計学会

中央大学後楽園キャンパス・オンライン

令和4年11月4日(金)

1 2) 日本希土類学会第40回講演会

主催：日本希土類学会

崎陽軒本店5階

令和4年11月9日(水)

1 3) 日本金属学会オンライン教育講座「金属製錬の熱力学」

主催：(公社)日本金属学会

オンライン

令和4年11月17日(木)~18日(金)

1 4) IIP 令和5年度 情報・知能・精密機器部門講演会

主催：(一社)日本機械学会

九州工業大学・オンライン

令和5年3月6日(月)~7日(火)

1 5) 令和4年度量子ビームサイエンスフェスタ

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、J-PARC センター他

つくば国際会議場・オンライン

令和5年3月13日(月)~15日(水)

1 6) 第一回日本電子材料技術協会磁性材料研究会セミナー

主催：日本電子材料技術協会 磁性材料研究会

ハイブリッド(現地:物材機構千現第二会議室)

令和5年3月24日(金)

Ⅱ 処務の概要

1 会議

2022（令和4）年4月1日から2023（令和5）年3月31日の間に下記の会議を開催した。

1) 総会

2022年6月27日開催の通常総会にて、2021年度事業報告並びに収支決算報告、2022年度事業計画並びに収支予算、名誉会員の推薦に関する議案が審議され、原案通り可決された。

2) 顧問会

顧問会を2022年9月8日に開催した。

3) 理事会

下記期日に開催した。

2022年5月20日、2022年6月27日、2022年9月13日、2022年11月8日、
2022年12月16日、2023年2月27日

4) 諸委員会

総務委員会 1回、事務局－総務合同会議 12回、財務委員会 2回、
企画委員会 7回、編集委員会 6回、広報委員会 1回、
AUMS Council meeting 4回
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 1回
論文賞、学術奨励賞（内山賞）選考委員会 1回
新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞選考委員会 1回
学生講演賞選考委員会 1回
出版賞選考委員会 1回

5) その他

名誉会員懇談会および賛助会員懇談会を学術講演会開催期間中の2022年9月7日に信州大学長野キャンパスにて開催した。事務局、総務理事、財務理事による、予算案に関する合同会議を2023年3月22日に開催した。役員選挙用の電子投票システムを導入し、投票率向上（前回44%から60%）に繋がった。コロナ禍により休止していた賛助会員訪問活動について、来年度以降、賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として再開実施する。また賛助会員と会員をつなぐ活動の一助として、学会報まぐねの「新技術・新製品」コーナーへの投稿呼びかけも継続する。

本年度の収支決算について、各種会議や講演会等を適宜オンライン実施したことや、企画委員会中心に新規講習会を企画・開催する等、収益に寄与する諸施策の実施により、コロナ禍以前と比較して赤字幅を大幅に削減した予算状態を引き続き達成できた。今後、突発的なコロナ禍による大幅な事業形態変更のリスクも想定しつつ、コロナ対応緩和を踏まえた最適な予算執行を継続する。また、財務状況の推移を引き続き注視

すると共に、支出の削減と収入増の方策を継続検討する。

2 契約に関する事項

◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
令和 3 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 4 年 4 月 1 日	学術著作権協会	複写に関わる権利委託	5 年※
令和 4 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 5 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年※
令和 4 年 8 月 1 日	文野公認会計士事務所	決算の監査	1 年
令和 5 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年※
令和 5 年 4 月 19 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和 4 年 12 月 10 日	(株)国際文献社	日本磁気学会報印刷	1 年※
令和 5 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年※
令和 4 年 11 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年※
令和 5 年 1 月 1 日	IEEE	National Society Agreement	3 年
令和 5 年 1 月 31 日	IEEE Magnetics Society	Sister Society Agreement	2 年 11 か月

※は自動更新の契約

3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 5 年 2 月 2 7 日現在)	前年度末現在 (令和 4 年 2 月 2 4 日現在)	増減
正会員	1, 0 9 8	1, 1 2 3	- 2 5
賛助会員	6 2	6 4	- 2
学生会員	3 2 3	3 0 9	+ 1 4
名誉会員	4 5	4 7	- 2

4 事業報告の内容を補足する重要な事項

2022 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

**第2号議案 2022(令和4)年度 収支決算に関する件
貸借対照表**

2023年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	3,501	10,778	△ 7,277
普通預金	15,473,940	15,890,628	△ 416,688
未収金	525,250	481,250	44,000
前払金	1,528,492	1,517,016	11,476
流動資産合計	17,531,183	17,899,672	△ 368,489
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	17,009,023	0
事務所充実特定預金	146,420	471,962	△ 325,542
出版広報特定預金	6,216,068	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,020,747	20,327,849	△ 307,102
退職給付引当預金	5,519,514	4,868,094	651,420
特定資産合計	50,911,772	50,892,996	18,776
(3) その他固定資産			
什器備品	2	2	0
ソフトウェア	140,664	210,996	△ 70,332
電話加入権	134,625	134,625	0
敷 金	1,072,500	1,072,500	0
その他固定資産合計	1,347,791	1,418,123	△ 70,332
固定資産合計	62,259,563	62,311,119	△ 51,556
資産合計	79,790,746	80,210,791	△ 420,045
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	773,300	478,000	295,300
前受会費	6,754,000	7,198,500	△ 444,500
預り金	352,976	433,885	△ 80,909
源泉所得税(給)	59,420	58,580	840
住民税	164,400	258,400	△ 94,000
社会保険料	90,360	86,275	4,085
所得税(報)	38,796	30,630	8,166
賞与引当金	972,100	958,600	13,500
未払金	476,756	89,421	387,335
未払消費税	0	539,800	△ 539,800
仮受金	0	20,000	△ 20,000
流動負債合計	9,329,132	9,718,206	△ 389,074
2. 固定負債			
退職給付引当金	5,519,514	4,868,094	651,420
固定負債合計	5,519,514	4,868,094	651,420
負債合計	14,848,646	14,586,300	262,346
III 正味財産の部*			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産合計	10,247,317	10,247,317	0
(うち特定資産への充当額)	(10,247,317)	(10,247,317)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	54,694,783	55,377,174	△ 682,391
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(35,144,941)	(35,777,585)	(△632,644)
正味財産合計	64,942,100	65,624,491	△ 682,391
負債及び正味財産合計	79,790,746	80,210,791	△ 420,045

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	300	100	200
基本財産運用益	300	100	200
特定資産運用益	448	439	9
特定資産運用益	448	439	9
受取入会金	237,000	194,000	43,000
受取入会金	237,000	194,000	43,000
受取会費	15,385,500	15,299,500	86,000
正会員費収入	10,283,500	10,400,500	△ 117,000
学生会員費収入	752,000	599,000	153,000
賛助会員収入	4,350,000	4,300,000	50,000
事業収益	16,574,367	14,568,922	2,005,445
学術講演会収入	4,350,420	3,768,920	581,500
研究会収入	1,339,400	1,413,940	△ 74,540
講習会収入	2,599,300	1,266,100	1,333,200
岩崎コンファレンス収入	487,000	735,000	△ 248,000
MSJ講習会収入	1,605,000	1,785,000	△ 180,000
専門研究会収入	20,000	43,000	△ 23,000
投稿料収入	1,837,000	1,727,000	110,000
その他投稿料	170,500	71,500	99,000
和文著作権料収入	226,647	214,362	12,285
広告料収入	3,726,800	3,338,500	388,300
会誌別刷り代収入	212,300	172,600	39,700
40周年記念事業収入	0	33,000	△ 33,000
受取補助金等	162,000	500,000	△ 338,000
受取民間助成金	0	500,000	△ 500,000
受取地方助成金	162,000	0	162,000
雑収益	487,686	571,074	△ 83,388
受取利息収入	76	74	2
雑収入	487,610	571,000	△ 83,390
経常収益計	32,847,301	31,134,035	1,713,266
(2) 経常費用			
① 事業費	29,051,498	26,901,048	2,150,450
雑誌発行費	4,319,423	4,446,752	△ 127,329
会誌発行費(まぐね)	3,532,887	3,674,898	△ 142,011
論文発行費	705,136	694,854	10,282
電子ジャーナル発行費	81,400	77,000	4,400
ウェブ管理費	452,804	452,584	220
ホームページ管理費	452,804	452,584	220
研究発表費	7,327,842	4,584,545	2,743,297
学術講演会開催費	3,403,594	1,850,397	1,553,197
研究会開催費	1,277,431	1,127,273	150,158
講習会開催費	1,604,745	658,730	946,015
専門研究会費	146,920	2,204	144,716
岩崎コンファレンス開催費	307,102	446,181	△ 139,079
MSJ講習会開催費	588,050	499,760	88,290
表彰・奨励費	604,914	555,447	49,467
表彰費	604,914	555,447	49,467
活性化費	279,029	47,174	231,855
支払保険料	8,200	8,200	0
会議費	86,075	0	86,075
諸委員会費(企画・編集・表彰)	86,075	0	86,075
給与手当	10,446,963	10,245,281	201,682
職員通勤交通費	140,850	140,493	357
福利厚生費	32,578	6,022	26,556
法定福利費	1,191,811	1,139,100	52,711
什器備品費	3,908	52,776	△ 48,868
消耗品費	52,628	48,897	3,731
印刷費	51,744	0	51,744
通信・運搬費	262,867	274,683	△ 11,816
会員データ管理費	277,200	276,424	776
事務所費	2,665,555	2,717,568	△ 52,013
賃借料	2,650,032	2,676,643	△ 26,611
リース料	15,523	40,925	△ 25,402
払込手数料	110,984	112,311	△ 1,327
租税公課	6,720	453,432	△ 446,712
雑費	123,131	134,538	△ 11,407
減価償却費	59,079	95,245	△ 36,166
退職給付費用	547,193	1,109,576	△ 562,383

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	4,478,194	4,118,529	359,665
給与手当	1,989,898	1,951,482	38,416
職員通勤交通費	26,828	26,761	67
福利厚生費	6,205	1,147	5,058
法定福利費	227,012	216,969	10,043
什器備品費	744	10,052	△ 9,308
消耗品費	10,024	9,314	710
印刷費	9,856	0	9,856
通信・運搬費	50,070	52,320	△ 2,250
会員データ管理費	52,800	52,652	148
事務所費	507,725	517,632	△ 9,907
賃借料	504,768	509,837	△ 5,069
リース料	2,957	7,795	△ 4,838
払込手数料	21,140	21,392	△ 252
諸謝金	770,000	770,000	0
租税公課	1,280	86,368	△ 85,088
雑費	23,454	25,626	△ 2,172
減価償却費	11,253	18,142	△ 6,889
会議費	665,678	147,324	518,354
総会費	103,895	79,420	24,475
理事会費	49,735	16,390	33,345
諸委員会費（総務・財務・広報）	35,815	1,420	34,395
選挙管理委員会	476,233	50,094	426,139
退職給付費用	104,227	211,348	△ 107,121
経常費用計	33,529,692	31,019,577	2,510,115
当期経常増減額	△ 682,391	114,458	△ 796,849
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 682,391	114,458	△ 796,849
一般正味財産期首残高*	55,377,174	55,262,716	114,458
一般正味財産期末残高	54,694,783	55,377,174	△ 682,391
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高*	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産期末残高	10,247,317	10,247,317	0
III 正味財産期末残高	64,942,100	65,624,491	△ 682,391

財産目録

2023年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量・使用目的等	金額
(流動資産)			
	現金	現金手元有高	3,501
	普通預金	三菱UFJ銀行神保町支店	5,039,281
		三井住友銀行神田支店	7,440,282
		みずほ銀行神田支店	1,691,582
		ゆうちょ銀行振替口座	1,302,795
		ゆうちょ銀行通常貯金	0
	未収金	広告料、論文投稿料	525,250
	前払金	1cAUMS、第47回学術講演会関連等	1,528,492
流動資産合計			17,531,183
(固定資産)			
基本財産			
	定期預金	みずほ銀行神田支店	10,000,000
基本財産合計			10,000,000
特定資産			
	学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	普通預金(みずほ銀行神田支店)	2,000,000
	国際会議準備特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	17,009,023
	事務所充実特定預金	定期預金(みずほ銀行神田支店)	146,420
	出版広報特定預金	定額貯金他	6,216,068
	萌芽的研究推進特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	20,020,747
	退職給付引当預金	普通預金(みずほ銀行神田支店)	5,519,514
特定資産合計			50,911,772
その他固定資産			
	什器備品	パソコン	2
	ソフトウェア	会計ソフト	140,664
	電話加入権		134,625
	敷金	東京YWCA	1,072,500
その他固定資産合計			1,347,791
固定資産合計			62,259,563
資産合計			79,790,746
(流動負債)			
	前受金	2023年度入会金・研究会資料予約購読料他	773,300
	前受会費	2023年度会費	6,754,000
	預り金	源泉所得税、社会保険料等	352,976
	賞与引当金	2022年度職員に対する期末手当の支払いに備えたもの	972,100
	未払金	研究会資料送料・社会保険料他	476,756
流動負債合計			9,329,132
(固定負債)			
	退職給付引当金	職員に対するもの	5,519,514
固定負債合計			5,519,514
負債合計			14,848,646
正味財産			64,942,100

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に基づく定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は次のとおりである。

ソフトウェア 5年

(2) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際会議準備特定預金	17,009,023	0	0	17,009,023
事務所充実特定預金	471,962	114,458	440,000	146,420
出版広報特定預金	6,216,068	0	0	6,216,068
萌芽的研究推進特定預金	20,327,849	0	307,102	20,020,747
退職給付引当特定預金	4,868,094	651,420	0	5,519,514
小計	50,892,996	765,878	747,102	50,911,772
合計	60,892,996	765,878	747,102	60,911,772

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	4,573,287	12,435,736	0
事務所充実特定預金	146,420	0	146,420	0
出版広報特定預金	6,216,068	0	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,020,747	4,674,030	15,346,717	0
退職給付引当特定預金	5,519,514	0	0	5,519,514
小計	50,911,772	10,247,317	35,144,941	5,519,514
合計	60,911,772	10,247,317	45,144,941	5,519,514

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品(PC)	121,800	121,799	1
什器備品(PC)	129,168	129,167	1
ソフトウェア(会計ソフト)	351,660	210,996	140,664
合計	602,628	461,962	140,666

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

補助金等の名称	交付者	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
コンベンション開催助成金	(公財)ながの観光コンベンションビューロー	0	162,000	162,000	0	—
合計		0	162,000	162,000	0	

監査結果報告

令和5年5月19日
監事：高野 良紀
監事：小林 宏一郎



私たち監事は令和4年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、監事監査規定に則り理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査した。

2. 監査の結果

(1) 理事職務執行の監査結果

理事職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

(2) 財務諸表および収支計算書の監査結果

財務諸表は、当法人の令和5年3月31日現在の財政状態並びに同日に終了した令和4年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しており、また収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日 公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、当法人の令和5年3月31日に終了した令和4年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

(3) 監査人の意見

1. 理事職務執行について

各理事および副会長に関する役割分担を明確にし、かつ各業務の遂行状況を理事会で報告し、議事録上で確認することができており、継続的にかつ十分に機能していると考ええる。

2. 事業について

新型コロナウイルスへの感染対策を行い対面による学術講演会を実施したことは、学会員への交流の場の提供として有効であったと考える。また、研究会、専門研究会、各種会議をオンラインで行うなど、これらに対する対応は新しいスタイルとして適切であったと考える。

3. 財務諸表および収支計算書について

例年課題となっている会費収入の減少を食い止め、微増になった点は高く評価できる。さらに、昨年度と同様に事業収入（特に講演会収入）の大幅な増加も高く評価できる。一方、対面での学術講演会や隔年実施の役員選挙による支出が増加した結果、最終的には約68万円の赤字決済になったことは、学会運営上重く受け止める必要がある。引き続き、財政面での収支のバランスを考えた学会運営が望まれる。

以上

独立監査人の監査報告書

2023年5月16日

公益社団法人 日本磁気学会
会長 杉本 諭 殿

文野公認会計士事務所

公認会計士

文野清正



<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の 2023 年 3 月 31 日現在の 2022 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかどうかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

第3号議案 2023（令和5）年度 事業計画

（2023年4月1日～2024年3月31日）

昨年度は学術講演会を3年ぶりに現地開催とする等、学会イベントについては徐々にウィズコロナに沿った運用に移行してきた。今年度も、オンライン会議システムを弾力的に併用しつつ、学術講演会、各種研究会並びにセミナーの現地開催を進めると共に、話題性のあるテーマを扱う講習会の実施等、会員にとって魅力ある学会となるよう努めていく。一方で、学会の財政状況については、これ以上のコロナ禍による支出減効果が期待できないことから、より一層の赤字体質脱却に向けた財務体制改善に関する取り組みを実行する。

本年度は特に下記の7点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、引き続き社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 新たな特任理事体制の構築による会員サービス向上と関連学協会との連携強化
2. 持続的な学会運営のための中長期的財務計画の検討
3. 学会活動の周知強化と会員増に向けたMSJ講習会の企画、並びに実施
4. 新規タスクフォースによる学会コンテンツの電子化、並びに再販活動
5. 選考体制・過程の見直しによる表彰選考プロセスの一層の公平化・透明化
6. HP や Facebook の活用による本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化
7. 国際会議 IcAUMS2025 の確実な企画準備

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催（定款4条1号）

1.1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 第46回学術講演会と同様に、参加者来場形式での開催を基本とする。
- ・ 2023年09月27日（水）から09月29日（金）まで、大阪大学 豊中キャンパス（大阪府豊中市）において第47回日本磁気学会学術講演会を開催する。シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えて、ポスターセッションを併設する予定である。
- ・ フェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1.1.1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第47回学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1.1.2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第47回学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 47 回 学術講演会の概要集についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 47 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行うことができるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 46 回日本磁気学会 学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 47 回 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッション併設により、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場を提供して、学術講演会の価値向上に努める。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 47 回 学術講演会においても、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を引き続き開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 6 回を目安として定期的で開催する。開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題
第 242 回	2023 年 5 月	宇宙における磁気応用
第 243 回	2023 年 7 月	未定
第 244 回	2023 年 9 月	未定
第 245 回	2023 年 11 月	未定
第 246 回	2024 年 1 月	未定
第 247 回	2024 年 3 月	未定

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」および「日本磁気学会 サマースクール」を、5 月末に開催する。電気学会など他学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。
- ・ 主に小学生を対象とした、磁気に関する啓蒙的講座(公開講演会)を 1 回程度開催する。
- ・ 当学会の活動を広く知ってもらい入会を促すことに主眼を置いた「MSJ講習会」を年 2 回程度実施する。
- ・ 開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。

1.4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。
- ・ 研究会への参加者を増やすための取り組みとして、研究会開催案内専用のメーリングリストを設け、運用を開始する。

1.5 岩崎コンファレンス

- ・ 2023年度は開催しない

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2.1 学会誌および学会報の発行

- ・ 2023年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.47, No.3(通巻第 327号)から Vol.48, No.2(通巻第 332号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.18 No.2(通巻第 134号)より Vol.19, No.1(通巻第 139号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学術講演会での講演に関する論文を集めた「日本磁気学会論文特集号(Transaction of the Magnetism Society of Japan Special Issues)」を Vol.7, No.1(通巻第 13号), Vol.7, No.2(通巻第 14号)の2回発行する。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2.2 出版活動の推進

- ・ 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。2023年度は、教科書シリーズ1巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2.3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ 2020年度に登録申請を行った SCI の審査に関する照会等に引き続き対応する。
- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
迅速な論文査読を徹底する。

(2) Review 論文の充実

理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。

学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。

(3) 投稿論文の充実

専門研究会からの投稿を募る。

投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。

引用数の拡大に関する呼びかけを進める。

(4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS および CC BY 4.0 による再利用促進を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 2023 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。ただし、コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、表彰式の開催形態と時期について、総務と企画で検討する。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、引き続きフェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ 本年度実施した学会3賞(学会賞、業績賞、優秀研究賞)の選考体制の見直しに続き、その他の賞についても選考過程を再検討し、分野の偏りの是正や審査委員選出プロセスの一層の透明性の向上を図る。
- ・ 学術講演会にて懇親会が開催された場合、MSJ 論文奨励賞・ポスター講演賞・学術奨励賞・学生講演賞の受賞者等を懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。2019 年度にスタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を推進する。
- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)を中核

として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2025 の開催等に向けた密な情報交換を行う。更に、ポストコロナを踏まえた欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。

- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ IcAUMS2025(2025年4月 沖縄コンベンションセンター)の開催が決定された。AUMS や現地の大学教員と連携して、コロナ禍の影響を考慮しつつ準備活動を進める。これまでのIcAUMS 準備委員会の活動を基に実行委員会組織を立ち上げ、円滑に業務移転を進めるなど、必要な作業を検討・実行する。
- ・ Intermag2023(2023年5月15～19日 仙台国際センター)について、現地実行委員会と協力して円滑な運営を行う。

II 会議

2023(令和5)年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- ・ 通常総会は2023年6月19日(月)に開催する。2022年度事業報告および収支決算、2023年度の事業計画および収支予算、新役員の承認、並びに名誉会員推薦などについて、審議および議決する。

2. 理事会

- ・ 2023年度の理事会は、原則として6回開催する。総会への提出議案、各種規定類の改定、学術講演会の実施要項、表彰に係る選考結果、各委員会体制などについて審議を行う。
- ・ 会長のガバナンスのもと、両副会長(運営戦略担当、学術連携担当)を中心としたタスクフォース体制により、広告増を目指した活動、学会出版物の電子化、学会間連携推進等の各種重要施策の実施に向けて取り組む。
- ・ 特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上と内外の学協会との連携強化を図る。

3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会、名誉会員懇談会、並びに賛助会員懇談会を開催する。
- ・ 顧問会、懇談会において収集した意見について、副会長および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。
- ・ 学術講演会がオンライン開催となった場合は、顧問会、並びに各種懇談会等は実施しない。

III 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的發展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化および各委員会の横の連携を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、課題抽出と対策を長期的に進める長期計画を策定し、その議論を通じ各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 今年度副会長(学術連携担当)を中心に立ち上げたコンテンツ電子化タスクフォースにて、学会創立 40 周年記念 DVD、学術講演会概要集、研究会資料等のコンテンツの電子化と販売に向けた取り組みを推進する。
- ・ 副会長(運営戦略担当)をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。大型支出などに備えた定期的な見直しを計画化するため、中-長期計画を策定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会:

- ・ 円滑な学会運営のため、理事会決定事項の進捗把握を一層進めると共に、引き続き事務局と拡大定例会を毎月開催して相互の連携を深める。
- ・ 学生講演賞等の選考のあり方を見直し、分野の偏りの是正や審査委員選出プロセスの一層の透明性の向上を図る。
- ・ 名誉会員、並びに賛助会員からの申し入れを学会運営へ積極的に取り入れることにより、学会活動に対する参画を推進すると共に、会員サービス向上にも繋げる。
- ・ 特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上、内外の学協会との連携強化を図ると共に、IcAUMS2025 の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会:

- ・ 財務状況改善に向けた 5 年長期計画案の作成と議論。(5 年で収支ゼロ等目標設定)
 1. 財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出し
 2. 行事予定の計画反映と予算化
- ・ 会費収入増にむけた施策の提言
 1. 年会費見直し(web 充実、印刷費高騰のため)
 2. 新しい磁気技術分野の会員獲得にむけた研究会開拓活動予算の支援
 3. 教育施策の内容充実への活動予算の支援

- ・ 財務改善のため収入増に向けた施策の検討と提言
 1. 委員会活動計画の収支向上に向けた提言(収益化、学術講演会会費アップなど)
 2. 各種印刷物の電子化推進(会誌の年4回など)の提言と議論

◎企画委員会:

- ・ 賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・ 需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス分野や生体磁気分野など)に関する初等的入門講座(MSJ講習会)の実施を企画する。
- ・ 専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・ 学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会:

- ・ 学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ論文奨励賞の授与を継続する。
- ・ 迅速な論文査読を徹底する。

◎広報委員会:

- ・ ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ ホームページ上のコンテンツ「技術情報」に「まぐね」連載講座を順次追加するなど、充実を図る。
- ・ メールマガジンを随時発行し、各種研究会の開催情報や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・ 会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。

◎国際委員会:

- ・ 本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・ 学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。

第4号議案 2023(令和5)年度 収支予算
(2023年4月1日～2024年3月31日)

単位:円

科目	2022年度	2023年度	増減(2023-2022)	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				配賦比率70:30(使用割合)
(1) 経常収益				
基本財産運用益	2,000	500	△ 1,500	
特定資産運用益	400	500	100	
受取会費	15,900,000	14,700,000	△ 1,200,000	
入会金収入	200,000	200,000	0	
正会員会費収入	10,500,000	9,500,000	△ 1,000,000	
学生会員会費収入	700,000	700,000	0	
賛助会員会費収入	4,500,000	4,300,000	△ 200,000	
事業収入	18,500,000	23,560,000	5,060,000	
学術講演会収入	7,200,000	7,200,000	0	
研究会収入	1,600,000	2,000,000	400,000	
岩崎コンファレンス収入	800,000	0	△ 800,000	2023年度 岩崎コンファレンス開催無し
講習会収入	2,700,000	2,500,000	△ 200,000	
投稿料収入	2,200,000	2,860,000	660,000	55本×5ページ(4頁まで40,000円. 追加12,000円/頁)
著作権料収入	0	0	0	
広告料収入	4,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	
Intermag開催収入*	0	6,000,000	6,000,000	Intermag2023共催 600万を予想しているが、特段のコロナ感染状況の悪化がなければ1000万程度の収入を見込める コンテンツ再販で200000円積み上げ。別項目とするか来 年以降要検討
雑収入	500,000	600,000	100,000	
経常収益計	34,902,400	38,861,000	3,958,600	
(2) 経常費用				
① 事業費	27,304,570	27,929,259	624,689	
雑誌発行費	4,720,000	4,770,000	50,000	
会報発行支出(まぐね)	3,880,000	4,000,000	120,000	印刷費用53万(値上げ分込み)×6+発送費72万円/年+α (カラー印刷代等)
論文発行費	700,000	700,000	0	
電子ジャーナル	140,000	70,000	△ 70,000	
ウェブ管理費	412,000	412,000	0	
ホームページ管理費	412,000	412,000	0	
研究発表費	8,270,000	8,100,000	△ 170,000	
学術講演会開催	4,500,000	4,000,000	△ 500,000	来年度、IcAUMSがインドネシアのバリで開催予定。これに 合わせてAUMSカウンスルミーティングが開かれるので、こ の参加費として、国際担当理事2名分の旅費(合計30万 円)を計上
学術会合費	140,000	300,000	160,000	
研究会開催	1,200,000	1,500,000	300,000	
講習会開催	1,600,000	2,000,000	400,000	
岩崎コンファレンス開催	500,000	0	△ 500,000	2023年度 岩崎コンファレンス開催無し
専門研究会開催	330,000	300,000	△ 30,000	
表彰・奨励費	250,000	300,000	50,000	
表彰費	250,000	300,000	50,000	
活性化費	200,000	150,000	△ 50,000	公開講演会リアル開催予定(1回分)、会場代等で50000円 減
会議費	680,000	1,000,000	320,000	編集委員会:会議開催形式に依る。22年度実績は全てオ ンラインで、11月現在0円である
諸委員会費	680,000	1,000,000	320,000	
給与手当	7,700,000	7,840,000	140,000	
福利厚生費	876,400	957,600	81,200	中沖0.5%、杉村・斉藤16%
職員通勤交通費	119,000	126,000	7,000	
退職給付引当費用	455,994	463,189	7,195	
減価償却費	79,800	49,000	△ 30,800	
賞与引当費用	670,600	680,470	9,870	
事務所費	2,218,776	2,226,000	7,224	
雑費	140,000	140,000	0	
支払保険料	50,000	50,000	0	昨年と同一
その他費用	462,000	665,000	203,000	

科目	2022年度	2023年度	増減(2023-2022)	備考
②管理費	7,072,530	7,084,539	12,009	
給与手当	3,300,000	3,360,000	60,000	
福利厚生費	375,600	410,400	34,800	
職員通勤交通費	51,000	54,000	3,000	
通信・運搬費	81,000	81,000	0	
消耗品費	30,000	30,000	0	
印刷費	9,000	9,000	0	
事務所費	950,904	954,000	3,096	
賃貸料	934,560	936,000	1,440	
リース料	5,544	6,000	456	
在宅環境費	10,800	12,000	1,200	
諸謝金	770,000	770,000	0	
什器備品費	15,000	15,000	0	
租税公課	3,000	90,000	87,000	
雑費	60,000	60,000	0	
払込手数料	60,000	60,000	0	
会議費	520,000	350,000	△ 170,000	
総会費	150,000	150,000	0	
理事会費	200,000	200,000	0	
諸委員会費	0	0	0	
選挙管理委員費	170,000	0	△ 170,000	2023年度 選挙無し
ウェブ管理費	330,000	330,000	0	
会員データ管理費	330,000	330,000	0	
退職給付引当費用	195,426	198,509	3,083	
減価償却費	34,200	21,000	△ 13,200	
什器備品減価償却費	13,100	0	△ 13,100	
ソフトウェア減価償却費	21,100	21,000	△ 100	
賞与引当金費用	287,400	291,630	4,230	
経常費用計	34,377,100	35,013,798	636,698	
当期経常増減額	525,300	3,847,202	3,321,902	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	525,300	3,847,202	3,321,902	
一般正味財産期首残高	16,039,397	16,564,697	525,300	
一般正味財産期末残高	16,564,697	20,411,899	3,847,202	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	0	
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	0	
III 正味財産期末残高	27,564,697	31,411,899	3,847,202	

*Intermag開催収入のうち、その一部を国際会議準備特定預金、事務所充実特定預金へ組み入れる。

2. 資金調達及び設備投資の見込みについて

(2023年4月1日～2024年3月31日)

期中に重要な資金調達等はありません。

第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

下記の方を名誉会員候補として総会に上程することが、2023年5月23日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、名誉会員候補者として推薦します。

候補者名（年齢）	生年月日	推薦基準
中川 活二 氏（65）	1957年10月15日	第5条2 1)ならびに3)
小林 久理眞 氏（70）	1952年6月21日	第5条2 2)

会員規定第5条（名誉会員の資格）

2 理事会における名誉会員の推薦基準は下記のとおりとする。

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野における業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、65歳以上の会員
- 7) 前記の1)～6)項と同等あるいはこれに準ずる業績および功績のある者

第6号議案 2023・2024（令和5・6）年度役員の推薦に関する件

公益社団法人日本磁気学会役員選挙規定に基づき、2023・2024年度の新役員選挙を実施し、選挙管理委員会が2023年4月12日に開票を行いました。

開票の結果を受けて、理事候補のうち得票数上位18名を、並びに、監事候補のうち2名を、それぞれ理事候補および監事候補として総会に上程することが、2023年5月23日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、2023・2024年度の新役員候補者として推薦いたします。

◎理事候補（定員18名）

氏名	所属
竹村 泰司	横浜国立大学
小野 輝男	京都大学
喜々津 哲	東芝
湯浅 裕美	九州大学
山田 豊和	千葉大学
中村 健二	東北大学
齋藤 明子	物質・材料研究機構
柳原 英人	筑波大学
山口 明啓	兵庫県立大学
村上 修一	キオクシア
水口 将輝	名古屋大学
岡田 泰行	三菱電機
藪上 信	東北大学
谷山 智康	名古屋大学
柿崎 浩一	埼玉大学
梅津 理恵	東北大学
菊池 弘昭	岩手大学
能崎 幸雄	慶應義塾大学

◎監事候補（定員2名）

氏名	所属
小林 宏一郎	岩手大学
齋藤 秀和	産業技術総合研究所

2022（令和4）年度通常総会資料

2023年6月19日発行

発行所 公益社団法人 日本磁気学会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館207号室

電話：(03) 5281-0106